

令和4年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

令和5年2月

1 これまでの経緯

少子化などの社会の変化が激しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、平成17年度から伊勢志摩地域活性化推進協議会を設置し、当地域の県立高校のあり方や活性化の方策等について協議を続けてきました。

こうした中、平成29年3月策定の「県立高等学校活性化計画」（平成29～令和3年度）に基づき、1学年3学級以下の高等学校は、地域の状況、学校・学科の特色、生徒の通学実態等をふまえ、学校ごとに関係者による活性化協議会を設置し、学校と地域が役割を分担しながら「活性化プラン」を策定して高校の活性化に取り組むこととしました。当地域においては、南伊勢高校（南勢校舎、度会校舎）、鳥羽高校、志摩高校、水産高校の4校5校舎において、地域と一体となった活性化の取組を推進するとともに、当協議会においても取組状況を共有しながら伊勢志摩地域の高校の活性化について協議してきました。これらの取組の推進により、各学校では地域と連携した学びが進むなど、教育内容は充実してきましたが、入学者の増加には至っていない状況となりました。計画の最終年度である令和3年度には、各学校の活性化協議会において活性化取組の総括的な検証が行われ、協議会でも検証結果を共有しました。

令和4年度からは、総括的な検証や15年先の中学校卒業生数の減少等をふまえて策定した新たな「県立高等学校活性化計画」（令和4～8年度）に基づき、伊勢志摩地域の高校の学びと配置のあり方について検討を進め、その方向性を取りまとめることとしました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定）より

これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 3学級以下の小規模校活性化の検証結果、15年先までの中学校卒業生の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方針、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

○ 令和2～3年度の当協議会での協議

高校生や学校の状況、小規模校活性化の取組、国の教育改革の動き等を共有したうえで、当地域の中学校卒業生数の減少や進路状況などをふまえ、地域の高校生に育みたい力や県立高等学校のあり方について協議しました。

ア これからの伊勢志摩地域の県立高校生に必要な力や学びについて

これからの伊勢志摩地域の子どもたちには、変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むとともに、地域への愛着心を養いながら地域課題に取り組む学習等を通じて、将来、地域の担い手となるような人材を育成することが大切である。

イ これからの協議にあたり、大切にすべきことや配慮すべきことについて

- ・生徒や保護者の多様なニーズに対応するための工夫
- ・ICTを活用した学習、学び直しをはじめ一人ひとりへの丁寧な指導
- ・生徒の通学状況を考慮に入れた高校配置
- ・これまで培ってきた地域と連携した学びの継続 など

ウ 今後の生徒数の減少に対応した県立高等学校の配置の考え方について

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高等学校の配置を続けていくことは難しい。これまでの地域の小規模校の教育内容を活かしつつ、この地域の高等学校の再編統合を協議していく必要がある。

2 当地域の県立高校を取り巻く状況

(1) 中学校卒業生数の推移

三重県の中学校卒業生数は、令和4年3月の16,244人から、令和13年3月には14,006人（令和4年3月比2,238人減）となることが見込まれており、引き続き少子化が進行します。その進行状況は地域によって異なりますが、当地域においては、以下の通り減少することが予測されています。

令和4年3月 1,879人

令和6年3月 1,723人（令和4年3月比156人〔8.3%〕減）

令和8年3月 1,716人（令和4年3月比163人〔8.7%〕減）

令和10年3月 1,572人（令和4年3月比307人〔16.3%〕減）

令和13年3月 1,549人（令和4年3月比330人〔17.6%〕減）

また、令和3年度の当地域の出生者数は1,199人となっています。

このことから、当地域全体の県立高校（全日制）の1学年の学級数は、中学校卒業生の進路状況が現在と大きく変わらない場合、令和4年度の32学級から、令和19年度には18～21学級になることが予想されます。

	中学校卒業生数（予測）			R3年度出生者数	
	現高1 R4.3卒	現小1 R13.3卒	R4.3比較	現1歳 R19.3卒	R4.3比較
伊勢市	1,082	912	▲ 170 (▲15.7%)	744	▲ 338 (▲31.2%)
鳥羽市	143	100	▲ 43 (▲30.1%)	88	▲ 55 (▲38.5%)
志摩市	339	249	▲ 90 (▲26.5%)	167	▲ 172 (▲50.7%)
度会郡	315	288	▲ 27 (▲ 8.6%)	200	▲ 115 (▲36.5%)
合計	1,879	1,549	▲ 330 (▲17.6%)	1,199	▲ 680 (▲36.2%)
県全体	16,244	14,006	▲2,238 (▲13.8%)	11,589	▲4,655 (▲28.7%)

(2) 直近5年の公立高校の学校別学級数の推移

平成30年度には地域で38あった学級数が、4年後の令和4年には32学級となっています。なお、10年前（平成25年度）は42学級、15年前（平成20年度）は47学級となっていました。

	H30	H31	R2	R3	R4	H20	H25
宇治山田高校	6	6	6	5	5	8	7
伊勢高校	8	7	7	7	7	8	8
伊勢工業高校	4	4	4	4	4	5	5
宇治山田商業高校	5	5	5	4	4	6	5
明野高校	5	4	4	4	4	5	5
南伊勢高校 南勢校舎	1	1	2	2	2	2	1
南伊勢高校 度会校舎	2	2				2	2
鳥羽高校	2	2	2	2	2	4	3
志摩高校	3	3	2	2	2	4	3
水産高校	2	2	2	2	2	3	3
合計	38	36	34	32	32	47	42

※網掛けは前年度に対する学級減

(3) 直近5年の公立高校の学科別学級数の推移

平成30年度には地域で38であった学級数が、4年後の令和4年には、普通科で4減、専門学科で2減（農業1減・商業1減）し、32学級となっています。なお、10年前（平成25年度）は42学級、15年前（平成20年度）は47学級となっていました。

		H30	H31	R2	R3	R4	H20	H25
普通科		20	19	17	16	16	24	21
専門学科	農業科	3	2	2	2	2	3	3
	工業科	4	4	4	4	4	5	5
	商業科	5	5	5	4	4	6	5
	水産科	2	2	2	2	2	3	3
	家庭科	1	1	1	1	1	1	1
	福祉科	1	1	1	1	1	1	1
総合学科		2	2	2	2	2	4	3
合 計		38	36	34	32	32	47	42

※網掛けは前年度に対する学級減

(4) 伊勢市外から伊勢市内へ進学状況

鳥羽・志摩・度会地域の中学校卒業者のうち、一定数が伊勢市内の県立高校または私立高校に進学しており、その割合は増加傾向にあります。

	H30.3卒		R4.3卒	
	伊勢市内へ	割合	伊勢市内へ	割合
鳥羽市から	104	57.5%	86	60.1%
志摩市から	212	49.1%	201	59.3%
度会町から	48	60.8%	43	62.3%
南伊勢町から	38	48.1%	45	83.3%
2市・2町から	402	52.1%	375	62.0%

(5) 伊勢志摩地域から地域外への進学状況

当地域（伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町）の中学校卒業者のうち、一定数が県内他地域及び県外の高校等に進学しています。

	H30.3卒		R4.3卒	
	地域外へ	割合	地域外へ	割合
3市・3町から	286	13.4%	266	14.5%

(6) 伊勢志摩地域から地域内の私立高校への進学状況

当地域には全日制の高等専門学校1校、私立高校2校が設置されており、当地域の中学校卒業者のうち、一定数がこれらの学校へ進学しています。

	H30.3卒		R4.3卒	
	3校へ	割合	3校へ	割合
3市・3町から	484	22.7%	504	27.4%

※(5)(6)の3市・3町は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町

(7) 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移

当地域の公私立を合わせた11校12校舎の全日制高校において、公立では欠員が増加する傾向にあり、伊勢市以外の公立高校の欠員が多い状況です。

	H30	H31	R2	R3	R4
伊勢市内の公立高校の欠員	12	2	15	3	0
伊勢市外の公立高校の欠員	79	84	77	117	129
公立高校の欠員計	91	86	92	120	129
私立の欠員	▲51	▲39	▲83	▲71	▲82

(8) 伊勢志摩地域の県立高校生（全日制）の進路状況（H30～R2）

伊勢志摩地域の公立高校卒業生の進路状況は、県全体とほぼ同じ状況です。学校別にみると、普通科では大学進学または就職のどちらかが多く、専門学科では就職の割合は多いものの、学科によっては進学が多くなることもあります。

	大学等進学者		専門学校	各種学校等 (予備校・職訓等)	就職	その他
	大学	短大等				
伊勢志摩地域	42.9%	4.5%	12.4%	4.6%	33.6%	2.0%
県全体	41.4%	5.4%	14.8%	4.0%	32.3%	2.1%

普通科

宇治山田高校	80.8%	5.9%	8.5%	1.3%	1.1%	2.4%
伊勢高校	86.6%	1.1%	0.9%	8.4%	0.9%	2.1%
南伊勢高校（南勢校舎）	22.5%	0.0%	15.4%	0.0%	62.1%	0.0%
南伊勢高校（度会校舎）	5.8%	1.5%	14.3%	5.9%	68.7%	3.8%
志摩高校	16.1%	5.2%	33.4%	2.0%	42.3%	0.9%
合計	67.8%	3.2%	9.1%	4.8%	13.0%	2.1%

総合学科

鳥羽高校	8.1%	2.3%	19.1%	1.0%	63.3%	6.2%
------	------	------	-------	------	-------	------

専門学科

工業（伊勢工業高校）	7.3%	1.7%	8.9%	1.1%	80.1%	0.9%
商業（宇治山田商業高校）	44.1%	6.3%	10.6%	4.9%	33.6%	0.5%
水産（水産高校）	2.7%	14.0%	7.8%	4.2%	70.3%	1.0%
農業（明野高校）	7.6%	3.5%	29.5%	2.3%	54.2%	2.9%
家庭（明野高校）	5.8%	7.8%	45.2%	4.6%	30.6%	6.0%
福祉（明野高校）	7.5%	17.6%	19.0%	32.5%	21.6%	1.9%
合計	18.1%	6.1%	15.5%	4.8%	54.0%	1.5%

(9) 伊勢志摩地域の県立高校への通学状況

伊勢志摩全域からバス等を利用して伊勢市内の高校まで通える状況となっています。ただし、地域が広いため6:30前後の始発に乗車する生徒もいます。

【通学時間】

	15分以内	16～30分	31～45分	46～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計
伊勢志摩地域	476 (13.5%)	1,037 (29.5%)	722 (20.5%)	620 (17.6%)	528 (15.0%)	107 (3.0%)	27 (0.8%)	3,517 (100%)
県全体	4,309 (13.7%)	8,799 (27.9%)	7,283 (23.1%)	6,838 (21.7%)	3,551 (11.3%)	613 (1.9%)	110 (0.3%)	31,503 (100%)

3 今年度の協議

(1) 協議の概要

○ 第1回 令和4年 6月 8日 (水)

15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は令和19年度には現在の32学級から18～21学級となることが見込まれることから、令和4年3月に策定された「県立高等学校活性化計画」や当協議会でのこれまでの協議をふまえ、これからの伊勢志摩地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について協議しました。

○ 第2回 令和4年 7月 5日 (火)

伊勢市内の県立高等学校長2名をゲストスピーカーとして招き、各校の特色、取組や現状等について意見交換するとともに、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数が18～21学級となる令和19年度のあり方について、以下の2点について協議しました。

①15年先に実現したい、子どもたちの多様なニーズに対応した学びや、伊勢志摩地域の担い手を育む教育

② ①の学びを実現するための具体的な県立高等学校の学科、学校の規模や配置に関する考え方

○ 第3回 令和4年 8月24日 (水)

15年先をふまえた伊勢志摩地域の県立高校における学びと配置のあり方に関する基本的な考え方や、地域の中学生と保護者を対象としたアンケートに関する質問内容、実施方法等について協議しました。

○ 第4回 令和4年10月12日 (水)

地域の中学生や保護者を対象としたアンケートに関する質問内容等について、前回の意見等をふまえて協議するとともに、令和6年度に想定される当地域の県立高校の学級減への対応の方向性をはじめ、今後の地域の高校のあり方について、協議しました。

○ 第5回 令和4年12月20日 (火)

伊勢志摩地域の中学生・保護者へのアンケート結果を共有して意見交換するとともに、15年先をみすえた県立高校の学びと配置のあり方に関する考え方やアンケート結果など、これまで協議してきた内容をふまえ、令和6年度に想定される県立高校の学級減への対応について、協議しました。

○ 第6回 令和5年 2月21日 (火)

第6回協議会の概要より転記予定

(2) 中学生及び保護者を対象とした令和4年度伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について

地域の中学生と保護者の意見を参考とするため、アンケートを実施しました。

調査期間：令和4年10月～11月11日

調査対象：伊勢志摩地域の中学2年生(1,702人)、中学2年生保護者(1,692人)
(伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・玉城町・大紀町)

調査方法：中学生はC B Tシステムを利用、保護者は紙媒体

回答者数：中学生1,538人(回収率90.4%)、保護者1,391人(回収率82.2%)

【中学生の意見】

- ・高校を選ぶとき、学習面では「進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できること」を、学校生活全般では「学校行事の充実」、「確かな学力を身につける授業」、「多くの友達や先生との出会い」、「通学のしやすさ」を重視している。
- ・高校には、「自分の将来を選択する力」、「社会性や協調性、コミュニケーション能力」を育む教育や、「基本的な知識」、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感」が身につく教育を期待している。
- ・5割近くの生徒が、高校では「3～4学級」の学校で学びたいと考えており、その理由は「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」としている。
- ・通学時間については、「31～60分」を選ぶ生徒が最も多く、1時間以内としている生徒は8割近くとなる。
- ・高校での地域の学習については、「別の分野」を学びたいという生徒が最も多いものの、「高校が所在する市町」や「伊勢志摩地域全体」を学びたいという生徒はあわせると6割をこえる。
- ・将来生活する場所については、「まだ、決まっていない。わからない」が最も多く、「県外」、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」、「地元」と続いている。

【保護者の意見】

- ・高校を選ぶとき、学習面では「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」を、学校生活全般では「確かな学力を身につける授業」、「通学のしやすさ」、「多くの友だちや先生と出会える」、「一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育」を重視している。
- ・高校には、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」をはじめ、「進路選択の力を育む教育」、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育」、「主体的に学び続ける力を育む教育」を期待している。
- ・これからの伊勢志摩地域の高校のあり方については、半数以上の保護者が「一定の統合は避けられない」を選択する中、約3割が「統合は避けるべき」を、約1割が「必要な統合を進めるべき」を選択している。
- ・通学時間については、中学生と同様、「31～60分」を最も多く選んでいる。
- ・将来生活する場所については、「本人の希望次第」が最も多く、「地元」、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」と続いている。

○ 学び等、高校で重視したいこと

(ア) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が60%以上の項目(3選択肢から1つ選択)

①進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できる教育

中学生 694 人 (45.1%) 保護者 876 (63.0%)

(イ) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が50%以上の項目

(8選択肢から4つまで選択、11選択肢から5つまで選択)

①自分の将来を選択する力が身につく教育

中学生 1158 人 (75.3%) 保護者 885 人 (63.6%)

②社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育

中学生 989 人 (64.3%) 保護者 1022 人 (73.5%)

③確かな学力を身につける授業が充実している

中学生 1007 人 (65.5%) 保護者 943 人 (67.8%)

④文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

中学生 1023 人 (66.5%) 保護者 429 人 (30.8%)

⑤社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

中学生 897 人 (58.3%) 保護者 880 人 (63.3%)

⑥通学しやすい

中学生 833 人 (54.2%) 保護者 861 人 (61.9%)

※通学時間は、中学生と保護者とも「31～60分」が最も多く選ばれている

⑦自ら学び続ける力が身につく教育

中学生 731 人 (47.5%) 保護者 820 人 (59.0%)

⑧基本的な知識が身につく教育

中学生 901 人 (58.6%) 保護者 408 人 (29.3%)

⑨多くの友だちや先生と出会うことが期待できる

中学生 859 人 (55.9%) 保護者 795 人 (57.2%)

⑩一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が期待できる

中学生 398 人 (25.9%) 保護者 711 人 (51.1%)

※地域学習について

・高校を選ぶときに重視すること：地域に密着した活動がある

中学生 117 人 (7.6%) 保護者 75 人 (5.4%)

・期待する教育：地域について学ぶ教育

中学生 103 人 (6.7%) 保護者 116 人 (8.3%)

・高校での地域の学習について

中学生：進学した高校が所在する市町について学んでみたい 490 人 (31.9%)

：伊勢志摩地域全体のことについて学んでみたい 466 人 (30.3%)

○ 配置について

(ア) 中学生が望む高校の学級規模とその理由

規模 ①3～4学級 754 人 (49.0%) ② 1～2学級 397 人 (25.8%)

③ 5～6学級 325 人 (21.1%) ④ 7学級以上 62 人 (4.0%)

理由 ①多くの出会い 776 人 (50.5%) ② 関係の深まり 381 人 (24.8%)

③ 多様な選択 216 人 (14.0%) ④ 一人ひとりへのサポート 124 人 (8.1%)

⑤ その他 41 人 (2.7%)

(イ) 保護者が考える15年先の伊勢志摩地域における高校のあり方の方向性

①一定の統合は避けられない 726 人 (52.2%)

② 統合は避けるべき 408 人 (29.3%)

③ 必要な統合を進めるべき 170 人 (12.2%) ※無回答 87 人 (6.3%)

(3) 今年度の協議会における主な意見

①これからの伊勢志摩地域の高校生に必要な力や学びについて

- ・変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むことが大切である。
- ・知識や技能の習得だけでなく、自ら課題を発見し、その課題を解決していく能力を育成することが大切である。
- ・働く意義の自覚や人間性の育成のためにも、キャリア教育を推進することが大切である。
- ・地域への愛着心を養い、将来、地域の担い手となる人材や、地域に戻って活躍するような人材を育成することが大切である。

②今後の生徒減における地域の高校の学びと配置のあり方を協議するにあたり、大切にすべきことや配慮すべきことについて

「これまで培ってきた地域と連携した学びの継続」

- ・地域の担い手育成の視点からも、小中学校で行われている「ふるさと教育」等は大切に、高校においても、小規模校で進めてきた地域を学びの場とする地域課題に取り組むことが必要である。
- ・これからは伊勢志摩地域を一つの地域としてとらえる「伊勢志摩学」として特色ある地域の教育と位置付け、地域すべての高校において進めることが大切である。
- ・ICTも活用しながら、通信制課程で地域の学びを保障していくなどの視点も大切である。

「ICTを活用した学習」

- ・高等教育機関や専門家等とつなぐことは専門的な知識の伝達や交流活動に効果的である一方、協働的な学びや学校行事・部活動などにおいて、対面ほどの効果を得ることは困難と考えられる。
- ・今後もこの地域で有効に活用できるよう、柔軟に研究や実践を続けていくことが大切である。

「生徒の通学状況への配慮」

- ・以前に比べれば交通網は整備されたものの、伊勢志摩地域は広いため、通学に関する問題については継続して考えていくことが必要である。
- ・高校の統合を進める場合、遠くから通学することとなる生徒に対し、スクールバスの検討など、運用面・資金面も含めた具体的な支援を検討することが必要である。

③今後の生徒減に対応した地域の普通科や専門学科等の学びの考え方について

- ・高校に進学する中学生の進路選択にかかるニーズに応えるため、この地域の中で学びの選択肢をできる限り確保することが大切である。
- ・普通科・専門学科・総合学科のバランスの取れた配置が大切である。
- ・生徒や保護者の大学進学へのニーズに対応するため、地域の中に一定規模の県立高校の普通科を維持することが必要である。

- ・地域の担い手を育む学びの選択肢を確保するため、多様な専門学科の学びはできる限り維持することが大切である。

④今後の生徒減に対応した県立高等学校の規模と配置の考え方について

- ・今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは困難である。
- ・学校内での学びの選択肢を増やすためには、一定の学級規模が必要である。
- ・地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割や、丁寧な指導などの教育内容を大切にしながらも、学校個別ではなく、地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要である。
- ・15年先の高校のあり方については、伊勢市内の高校配置の検討も必要である。
- ・専門学科同士の統合も含め、今後もその配置のあり方について継続的な検討が必要である。
- ・単に志願者や入学者等の数によって、高校の統廃合を検討するのではなく、伊勢志摩地域で通える範囲に高校が配置され、地域で多様な人材を育てることが大切である。
- ・長時間の通学は負担となるため、できるかぎり地域に普通科を維持することも大切である。
- ・高校時代に多くの人との出会いの中で学び合うことは、生徒の豊かな社会性や人間性の育成にとって大切である。
- ・様々な生徒の学びのニーズに応えられるよう、一定の規模を維持しながら、高校をより魅力化することが大切である。

⑤令和6年度に想定される当地域の県立高校の4学級減への対応の方向性

- ・15年先に総学級数が18学級規模に減少していく途上であるという視点をもって、高校の学びと配置を検討していくことが必要である。
- ・地域の小規模校を残しながら生徒数が減り続けた末に統廃合するのか、一定の学級規模がある段階で統廃合を行うのかについて検討していくことが必要である。
- ・これまでの協議会での議論から考えると、令和6年度、8年度、10年度に見込まれる生徒減に関しては、いずれかの時期には一定の統合が必要という共通の認識ができています。
- ・令和6年度については、できる限り統合ではなく学級減での対応を基本とすることが望ましい。

※必要に応じ、第6回協議会の意見を追加

4 今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について（案） （当協議会の考え方）

- これからの時代を生きる伊勢志摩地域の高校生にとって、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる多様な学び、学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び、地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び、それらの学びの質を高めるための一人ひとりへのきめ細かな関わりが必要です。現在、当地域における高校の1学年の総学級数は32学級ですが、令和3年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和19年度には18学級から21学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の9校10校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要となります。
- 今後、令和19年度までの15年間における伊勢志摩地域の高校の配置と活性化方策については、この期間の生徒の減少状況をふまえ、当地域全体を見通した具体的な検討を進めるとともに、必要に応じて、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、中学生への事前の周知についても検討することとします。その過程にある令和6年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいと考えます。

令和19年度をみすえた伊勢志摩地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会の意見）

**令和5年度
33 学級**
地域の中学校卒業予定者数
1,928人(現中3)

**令和6年度
29 学級**
地域の中学校卒業予定者数
1,723人(現中2)
前年度比▲205

**令和8年度
28 学級**
地域の中学校卒業予定者数
1,716人(現小6)
前年度比▲39

**令和10年度
24～25 学級程度**
地域の中学校卒業予定者数
1,572人(現小4)
前年度比▲159

**令和19年度
18～21 学級程度**
地域の令和3年度出生者数 1,199人

宇治山田高校 (普5)	伊勢工業高校 (専4)	宇治山田商業高校 (専5)	南伊勢高校 (普2)	鳥羽高校 (総2)	水産高校 (専2)
伊勢高校 (普7)	伊勢工業高校 (専4)	明野高校 (専4)	南勢校舎・度会校舎	志摩高校 (普2)	水産高校 (専2)

**伊勢志摩地域の
県立高校
(全日制)**
水産高校 (専2)

**伊勢志摩地域の
県立高校
(全日制)**
水産高校 (専2)

**伊勢志摩地域の
県立高校
(全日制)**

15年先を見すえた当地域の高等学校の学びと配置のあり方
(これからの当地域の高校生に必要な力や学び)

- ・ 大学進学や就職などの進路実現につながる多様な学び
- ・ 学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び
- ・ 地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び
- ・ 一人ひとりへのきめ細かな関わり
- ・ 自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力
- ・ 将来、地域の担い手となる人材や地域に属して活躍する人材の育成につながる学び

(こうした学びを実現するための配置の考え方)

- ・ 現在の高校配置の継続は困難となり統廃は避けられない
- ・ 専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持

今後の協議にあたり検討や配慮すべき事項

- ・ 地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割を大切にしながら、学校個別ではなく地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要
- ・ 交通が不便な地域における学びの機会の提供方策
- ・ 中学生への事前の周知
- ・ 定時制、通信制課程の学びの活用
- ・ 規模が小さい学校や近くの学校を求める生徒の思いへの配慮

**学科の割合
(令和5年度)**

普通科	48.5%
専門学科	45.5%
総合学科	6.1%

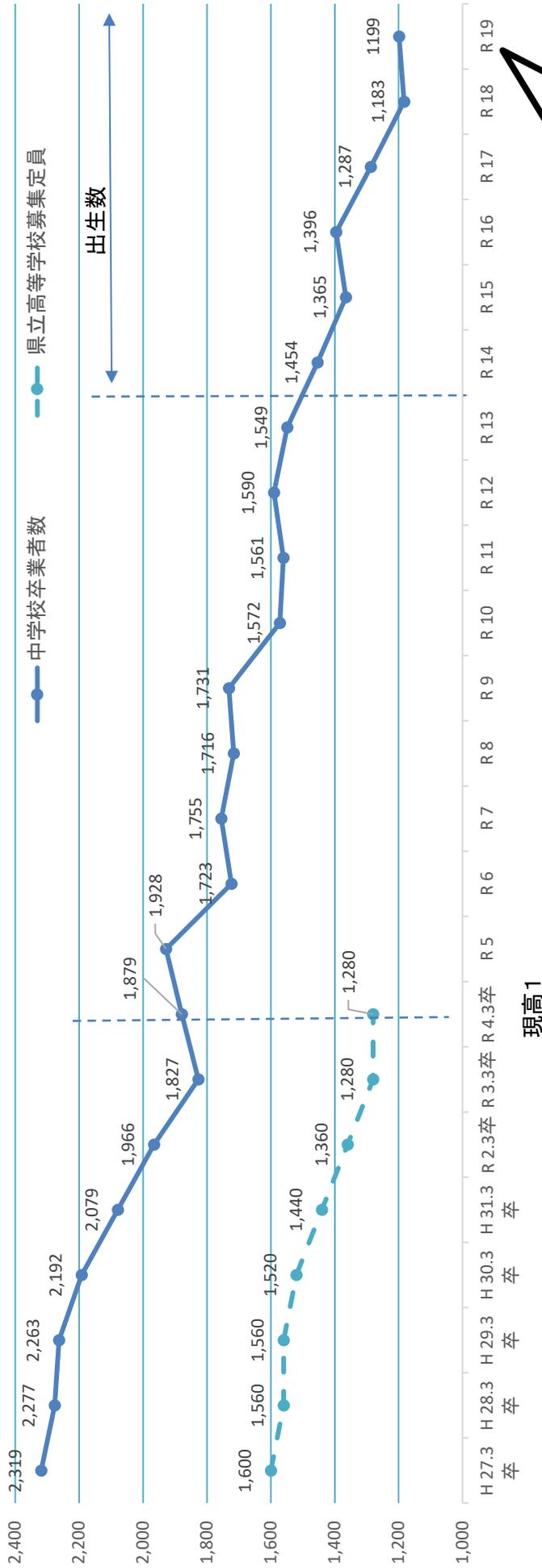
令和5年度をめどに
方向性

令和7年度をめどに
方向性

※令和6年度以降の学級数については、伊勢志摩地域における県立高校と私立高校の募集定員の比率、中学校卒業率が市町を越えて高校進学する比率等が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。
※中学校卒業予定者数は、令和4年5月1日時点の教育政策課による予測数値

伊勢志摩地域の中学校卒業生数(予測)と県立高等学校募集定員

※R14年度以降は地域の出生数を記載



伊勢志摩地域の出生数

	H27年度出生 現小1	H28年度出生 5~6才	H29年度出生 4~5才	H30年度出生 3~4才	R1年度出生 2~3才	R2年度出生 1~2才	R3年度出生 0~1才
伊勢市	935	864	814	883	811	761	744
鳥羽市	108	109	94	98	83	65	88
志摩市	258	240	227	209	205	177	167
度会郡	273	241	230	206	188	180	200
合計	1,574	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199

令和19年度(15年後)
伊勢志摩地域県立高等学校
募集定員総数の見込み
18~21学級規模

参考資料2

伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和4年度入学生)

伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		伊勢志摩地域全日制課程		
学校名	大学科	募集定員(R4)	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	宇治山田高校	200	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	伊勢高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	伊勢工業高校	160	専門学科	機械科	機械科	機械科	建築科	電気科	電気科	電気科										
県立	宇治山田商業高校	160	専門学科	商業科	商業科	情報処理科	国際科	国際科	国際科	国際科										
県立	明野高校	160	専門学科	食品科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科	福祉科	福祉科	福祉科										
県立	南伊勢高校南勢校舎	80	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	南伊勢高校校舎	80	普通科	観光ビジネス、総合福祉 スポーツ健康、文理進学	観光ビジネス、総合福祉 スポーツ健康、文理進学	普通科	普通科	普通科												
県立	鳥羽高校	80	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科
県立	志摩高校	80	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	水産高校	80	専門学科	海洋・機関科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科	水産資源科
私立	皇学館高校	315	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
私立	伊勢学園高校	230	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	松阪高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	松阪工業高校	200	専門学科	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科	電気工学科	電気工学科										
県立	松阪商業高校	160	専門学科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科	国際ビジネス科	国際ビジネス科	国際ビジネス科										
県立	相可高校	200	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
県立	飯南高校	80	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科
県立	昂学園高校	80	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科
私立	三重高校	540	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科

全32学級
普通科16
専門学科14
(工業4)
(商業4)
(農業2)
(家庭1)
(福祉1)
(水産2)
総合学科2

伊勢志摩地域
中学校卒業生数
R4.3卒 1,879人

全25学級
普通科9
専門学科12
(工業5)
(商業4)
(農業2)
(家庭1)
総合学科4

松阪地域
中学校卒業生数
R4.3卒 1,844人

伊勢志摩 3

- 定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人 普通科: 午前の部40人、午後の部40人、モノづくり工学科40人(夜間)
- 通信制課程 私立 英心高校 100人 普通科: (全日型、水曜、土曜の各コース)
- 通信制課程 私立 代々木高校 800人 普通科: (通学コース、通信一般コース等)
- 高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 120人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(80)

令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	本年度 出席委員
1	学識経験者 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○
3	鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○
4	志摩市商工会 事務局長 竹内 厚史	○
5	度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○
6	市町教育委員会 教育長 岡 俊晴	○
7	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○
8	志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○
9	度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○
10	南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○
11	県立高等学校長代表 県立南伊勢高等学校 校長 角屋 貴久	○
12	小中学校長代表 伊勢市立港中学校 校長 清水 能人	○
13	鳥羽市立加茂中学校 校長 西井 潔	—
14	志摩市立東海中学校 校長 寺本 一夫	○
15	大紀町立大宮中学校 校長 辻井 良孝	—
16	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 浦田 宗昭 (伊勢市立厚生中PTA)	○
17	鳥羽市PTA連合会 代表 水川 敬善 (鳥羽市立加茂中PTA)	○
18	志摩市PTA連合会 代表 大西 正和 (志摩市立東海中PTA)	○
19	度会郡PTA連絡協議会 代表 東谷 雅人 (玉城町立外城田小PTA)	○
20	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 藤原 達郎 (県立水産高校PTA)	○
21	小中学校教職員代表 伊勢市立明倫小学校 教諭 坂口 直矢 (伊勢市 教員代表)	○
22	志摩市立東海小学校 教諭 里中 洋典 (鳥羽・志摩地域 教員代表)	○
23	南伊勢町立南勢中学校 教諭 加藤 隆彦 (度会・南伊勢地域 教員代表)	—
24	高等学校教職員代表 県立伊勢工業高等学校 教諭 三橋 哲夫 (県立高等学校 教員代表)	○